

種名	アレチウリ Sicyos angulatus 					
	分類	被子植物双子葉離弁花類ウリ科	俗称		生活型	1年草、つる型
分布	北アメリカ原産の帰化植物で、1952年に静岡県清水港で発見され、現在は全国に広がっている。					
形態	荒地に生える1年生のつる草で、つるを長く伸ばし、荒地を一面に覆うように繁茂する。 葉:葉は互生し、巻きひげは3分枝する。葉は円心形で5角または5浅裂し、裂片の先は尖る。 花:雌雄同株で花期は7～10月。葉の腋から長柄の花序を出して花をつける。雄花は黄白色で直径1cm、花は5弁で、基部は合生する。 果実:果実は液果が頭状に集まってつき、柔らかい刺を密生する。独特の形で見分けやすい。					
類似種	スズメウリは水辺や平地の湿地に生える1年生つる草で、茎は細く、葉は薄く、三角形で基部は心形になる。花期は8～9月で、長い柄に先に直径5～6mmの小さな花をつける。果実は直径1～2cmの球形または卵形の液果で灰白色であり、アレチウリとは明瞭に区別できる。 ゴキヅルは水辺によく繁茂する1年生つる草で、葉は三角状披針形で先が尖り、花は萼片や花弁が細長くユニークな形をしている。果実は蓋果で、熟する横に二分して種子を出す。全体の形状から区別は可能。					
生息場所	河原の泥地や土手など、平地の陽当たりのよい、開けた荒地に生育し、地面を覆いつくすように繁茂する。					
繁殖	種子で繁殖する。果実は液果が数個、頭状に集まったものであるが、個々の液果は長卵形で長さ約15mm、表面に刺と軟毛を密生し、中に長さ約10mmの卵形で扁平な暗褐色の種子を1個持つ。					
他生物との関係	荒地を覆って繁茂し、他の植物の生長を阻害する。					
配慮のポイント	生育の早期に刈り取りを行ない、繁茂を防ぐ。					
引用文献:『川の生物図典 植物』を改変						